



第1回北海道大学病院地域連携懇話会を開催

北海道大学病院は、8月29日(金)午後3時からロイトン札幌「リージェントホール」において、第1回北海道大学病院地域連携懇話会を開催しました。本懇話会は、本院と関連の深い地域医療機関の関係者に本院の紹介と報告を目的として企画しました。

はじめに寶金清博 病院長の挨拶の後、渥美達也 地域医療連携福祉センター長から、同センターにおける地域連携の取組について詳細な紹介がありました。引き続き、白土博樹 陽子線治療センター長から、先進医療で行われている「陽子線治療」、秋田弘俊 腫瘍内科診療科長から「がんの集中的治療」、北川善政 歯科口腔内科診療科長から「外来新棟 歯科診療センターの紹介」、生駒一憲 リハビリテーション科診療科長から「高次脳機能障害と地域連携」について、個々に詳細な紹介がありました。最後に特別講演として、北海道医師会長 長瀬 清氏から「北海道の地域医療について」の演題で、医療制度の変遷と地域医療の機能分化の必要性について、講演がありました。

当日は149名(学外88名・学内61名)の参加者があり、大盛会のうちに本懇話会を終了しましたが、今後も定期的開催する予定です。



北海道大学病院長 寶金清博



外来診療のご紹介

光学医療診療部 助教 小野 尚子

日常診療において、消化器疾患はもっとも患者数が多い疾患です。光学医療診療部では、消化器領域の中でも消化管疾患を対象として外来診療と内視鏡検査を行っています。

外来診療

消化管症状は非常に多彩であり、器質的な異常を認めない機能性疾患の患者数も多いのが特徴です。そのため、地域医療との連携がより重要な分野であり、大学病院の役割としてはより専門的で高度な診断や治療の提供を目指しています。消化管疾患の新患外来は、月曜から金曜日まで予約制で毎日診療しており、再来も各担当医師による専門診療として対応しております。

新内視鏡室の紹介

内視鏡検査室は、本年8月外来棟3階に移設しました。受診患者様の利便性と安全でスムーズな検査運用を目指し、1年近く会議を重ねてI期工事が無事終了しました。概ね工事は終了していますので、少し紹介させていただきます。受付窓口は廊下に面しており、担当クラークがスムーズに患者様に対応いたします。前処置室やリカバリールームはプライバシーに配慮されており、室内は通路が広く、窓から光も差し込み明るくなりました。残念ながら面積的にはさほど広がっておりませんが、検査室は内視鏡室が現在4室、透視室1室の計5室、診察室

も3室併設されています。内視鏡システムはオリンパスとフジフィルムの画像強調観察に対応し、スコープはルーチンの上下部内視鏡検査においても拡大内視鏡を標準使用していますが、経鼻内視鏡や鎮静下の検査にも対応可能です。また、医師室内では各検査室内のルームモニターと内視鏡画面を供覧できるようになり、学生や若手医師の教育に役立っています。年末から来年春にかけてのII期工事を経て、最終的には検査室は5室となり完成する予定です。

内視鏡検査

当施設は、消化器病学会、内視鏡学会、大腸肛門病学会、消化管学会、カプセル内視鏡学会の指導施設であり、内視鏡専門医と大学院生が内視鏡検査に携わっています。上部および下部消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査、小腸内視鏡およびカプセル内視鏡検査による内視鏡診断に加え、内視鏡治療は消化管腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)と内視鏡的ポリープ切除術を中心に行っています。また近年、耳鼻科や消化器外科と協力し、咽頭のESDや粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡共同手術(LECS)など先進的な治療も行えるようになりました。日常臨床とともに、内視鏡に関わる臨床研究や基礎研究、若手医師の教育にも力を注いでおり、更に光学医療診療部として発展し、北海道の医療に貢献できるよう努めます。



外来診療のご紹介

スポーツ医学診療科 外来医長 北 村 信 人



外来診療

スポーツ医学診療科は、膝関節を中心とした下肢の「関節外科治療専門施設」として国内外に広く知られており、靱帯再建術から人工関節置換術に至るまで最先端治療を行っています。新来・再来（紹介・予約不要）とも、火曜日、水曜日、木曜日の午前中に行っています。

対象疾患

当科では、膝靱帯損傷（前十字靱帯損傷、後十字靱帯損傷、複合靱帯損傷）、半月板損傷、軟骨損傷、反復性膝蓋骨脱臼、疲労骨折、肉離れのようなスポーツ外傷・障害から、変形性膝関節症、特発性膝骨壊死、リウマチ性関節症などに対する治療を行っています。

膝靱帯損傷

靱帯損傷に対しては、高磁場MRIや膝十字靱帯機能検査機器で診断し、損傷した靱帯とその重症度に応じた治療法を選択しています。装具やリハビリでの治療が見込めない症例では、正常な膝関節機能再獲得を目指した「解剖学的靱帯再建術」を行っています。他の病院では行えないような高難度な複合靱帯再建術や再手術（再々

建術）も多くの症例に行っています。前十字靱帯損傷は、放置するとスポーツ活動に障害を及ぼすだけではなく、軟骨や半月板にも二次的な損傷を来すことがありますので積極的に手術治療を行っています。また再断裂症例にも可能な限り解剖学的靱帯再建術を適用しています。これまでも多くのアスリートのスポーツ復帰をサポートしています。

関節軟骨損傷

関節軟骨は一度損傷すると修復しないため、実際の医療現場では医師・患者双方が治療法の選択に苦慮されている場合が少なくありません。当科では症状・局所所見に合わせて保存療法（装具、関節注射）、手術療法、あるいはその両者をうまく組み合わせて治療を行っています。関節鏡を用いたマイクロフラクチャー法（骨髄刺激法）、骨軟骨移植術（モザイク形成術）、比較的大きな病変には自家培養軟骨移植術などの手術治療も行っています。

変形性膝関節症

変形性膝関節症などの膝関節症に対しては、投薬、装具（サポーター、足底板など）、ヒアルロン酸関節注射などの保存療法をはじめ、重度関節症に対しては人工膝関節置換術を行っています。当科では人工関節置換術の長期成績の向上を目指したジルコニア・セラミック製人工膝関節を独自に開発し臨床応用しています。さらに、より正確で安全な手術および手術侵襲の低減のための手術器械を開発し、優れた術後成績を獲得しています。

アスリートのメディカルサポート

スポーツ外傷や障害の診断と治療に関して、実際の治療からセカンドオピニオンまで様々な形でアスリートのメディカルサポートを行っています。難治性の疲労骨折や肉離れなどの治療や助言も行っています。当科の医師は、試合帯同やチームドクターなどの活動をしており、トップアスリートの治療経験を臨床に活かし、スポーツ愛好者からプロ選手に至るまで早期の競技復帰に貢献しています。他院で治療を受けられた患者様の継続治療のご希望については外来にご相談ください（011-706-5760/5761）。



外来診療のご紹介

リハビリテーション科 外来医長 池田 聡

リハビリテーション科では、脳血管疾患、頭部外傷、骨関節疾患、神経筋疾患、脊髄損傷、切断、呼吸循環器疾患、悪性疾患などによる障害に対しチーム医療を実践しています。また、以下の専門外来も開設しております。

高次脳機能外来

〈責任者〉生駒：月曜日・木曜日

交通事故などによる外傷性脳損傷で、急性期を過ぎてから問題になるのは高次脳機能障害です。高次脳機能障害は複雑な精神活動の障害を意味する言葉で、記憶障害、注意障害、遂行機能障害（目的を持った連の活動を的確に行うことができない）、社会的行動障害などが症状としてみられます。高次脳機能障害があると、就職、復職、学業などが困難になることもあります。リハビリテーション科では MRI、ボジトロン断層撮影法、電気生理検査、神経心理学的検査などで現在の状態を評価し訓練を行っています。

ボツリヌス療法外来

〈責任者〉松尾：月曜日・木曜日

脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺などによる麻痺で筋緊張が過剰に亢進し、「手足の指が曲がったまま伸びなくて

痛い」、「肘や膝が曲がったまま伸びない」、「膝や足がつっぱってしまい歩きづらい」、「歩くときつま先が引っ掛かる」、「はさみ足になってしまう」、「手足がこわばって痛い」、などの“痙縮”と呼ばれる症状を呈することがあります。

リハビリテーション科では痙縮に対しボツリヌス療法をはじめとする各種のブロック療法を行っております。ボツリヌス療法は、ボツリヌストキシンを異常に緊張した筋肉に注射することで緊張を緩ませ、肢位の改善、ADL の改善、QOL の向上等が期待できます。

ポリオ後症候群外来

〈責任者〉松尾：月曜日・木曜日

ポリオ後症候群とは、脊髄前角細胞にポリオウイルスが感染して、急性灰白髄炎（Poliomyelitis）に罹患したが、完全にあるいは部分的に回復し、良好な状態が 10 ～ 50 年続いた後、四肢や体幹に筋力低下や筋萎縮が出現するもので、徐々に疲労感が強くなる、歩行障害が悪化するなど、新たな身体徴候が出現する病態のことです。

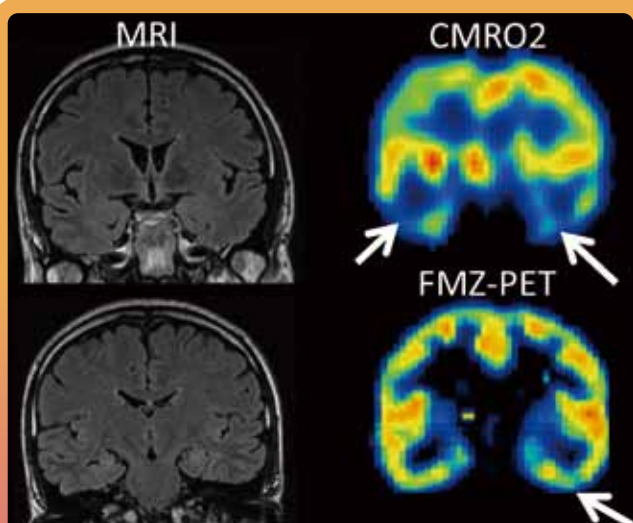
ポリオ後症候群では、進行の予防が重要で、過用による悪化が指摘されています。

ポリオ後症候群外来では、診断、補装具の処方、調整、生活指導、入院でのリハビリテーション等をおこない、ADL、QOL の維持改善を図っていきます

脊髄小脳変性疾患外来

〈責任者〉池田：火曜日・金曜日

脊髄小脳変性症とは、運動失調を主症状とした神経疾患で遺伝性、非遺伝性があります。様々な病型が報告されており、原因遺伝子が判明しているものも増えています。緩徐進行性で、症状が悪化していきますが、根治療法はまだありません。リハビリテーション、経頭蓋磁気刺激療法が有効で、脊髄小脳変性疾患外来では、症状の程度、筋力、可動域など状態の診断、入院での磁気刺激療法とリハビリテーションを行っています。



頭部外傷の症例。MRI で異常所見は認められない。両側側頭葉で酸素消費量低下と左側頭葉でベンゾジアゼピン受容体結合能低下が認められる。

耳鼻咽喉科外来診療のご紹介

耳鼻咽喉科 外来医長 高 木 大

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、新生児から高齢者まですべての年齢層を対象に、聴く・嗅ぐ・味わうといった感覚器を始め、話す・食べるなどの生活を営むために必要な器官を扱います。そのため、腫瘍、炎症性疾患、アレルギー・自己免疫疾患を始め、聴覚・平衡・嗅覚・味覚・音声・嚥下・顔面神経の機能障害などの多種多様な疾患を診断し、治療を行っております。



外来風景

頭頸部腫瘍外来

頭頸部腫瘍外来は、毎週火曜日の午前中に行われ、午後には放射線科および腫瘍内科との合同カンファレンスを行い、患者さんの臨床病期や治療方針の決定を行っております。治療に関しては、手術、超選択的動注化学療法、放射線化学療法を行っております。

また、昨年より使用可能となったセツキシマブは、これまで照射単独になっていた高齢者や合併症症例に対する放射線治療との併用や、再発転移に対する救済治療を目的にした化学療法との併用を行っております。従来の化学療法に比べ副作用は軽い印象です。今後、長期的な治療効果の解析なども行っていきたいと思っております。



頭頸部グループ同

聴覚 中耳外来

聴覚専門外来は金曜日に行っております。幼小児の難聴に関しては、従来通り COR、OAE、ABR などを用いて聴力評価を行っています。昨年より ASSR も正式に導入しており、多くの症例を用いてより精度の高い聴力評価を目指しています。また先天性難聴に対する遺伝子診断も保険収載されて約 2 年経過しました。それに伴って専門外来でも遺伝子相談のために受診される患者様・御家族の方が増えてきている印象です。また、鼓膜形成術は症例に応じて 1 泊入院で局所麻酔下に施行しています。

免疫・アレルギー外来

毎週水曜日の午前・午後に、診療を行っております。午前外来では、新患のアレルギー性疾患、難治性慢性副鼻腔炎の紹介患者さんや、顕微鏡的多発血管炎、ウェゲナー肉芽腫 (GPA)、Churg-Strauss 症候群 (EGPA) といった ANCA 関連血管炎、反復性多発性軟骨炎、シェーグレン症候群などの自己免疫性疾患を中心に診療を行っております。なかでも好酸球性副鼻腔炎は増加傾向にあり、当科では手術療法も含めて積極的に治療を行っております。

喉頭外来

喉頭外来は、第 2・第 4 水曜日の午後に行っております。言語聴覚士の皆さんに音声機能検査・発声訓練をお願いしております。対象疾患は音声障害全般を見っておりますが、その中でも、声帯麻痺、痙攣性発声障害、声帯ポリープ、喉頭肉芽腫、喉頭乳頭腫など、器質的疾患を中心に診察しております。診療内容の特徴としては、通常の外来では時間が取りにくい、音声機能検査やストロボを用いた専門的評価、言語聴覚士による発声訓練、外来局麻下でのポリープ切除・声帯内ステロイド注入・アテロコラーゲン注入などの外来日帰り手術などを行っております。

矯正歯科のご紹介

矯正歯科 外来医長 山 本 隆 昭

昭和 45 年に北海道大学歯学部附属病院の一診療科として矯正歯科が正式に開設されました。それ以降病院の改変に伴い、名称を変えながら歯科矯正治療を行っていますが、現在は、歯科診療センター咬合系歯科矯正歯科として診療にあたっています。当科所属の歯科医師は、平成 26 年 10 月 1 日現在 41 名ですが、そのうち日本矯正歯科学会専門医 1 名、指導医 8 名、認定医 12 名（重複あり）となっています。また、外来スタッフとしては、歯科衛生士が 3 名、助手 1 名が働いております。

外来診療

年間で約 250 名の新患の方が受診していますが、「長期間安定する正しく美しい歯並び・かみ合わせ・顔貌の獲得」を目的として診療に当たっております。治療に際しては、不正咬合の状態を形態・機能の両面からの確にとらえることで、正しい咬合を獲得するための選択肢を設定し、患者さんのご希望をふまえた上で最終的な治療方針の決定を行っています。また新患の方の約 4 割が顎変形症や口蓋裂をはじめとする先天異常、あるいは顎機能異常を有する患者さんです。最近では、保険診療が適応される先天的疾患（厚生労働省が指定した疾患に限る）も増えており、今後も色々な問題を抱えた患者さんが来院されることと思います。これらの患者さんについては、矯正歯科単独での治療が困難なことが多く、必要に応じて、関連医科・歯科診療科との綿密な連携をとりながら対応しています。現在のところ顎変形症カンファレンス、口蓋裂カンファレンス、Maxillo-Facial(MF) カンファレンスの 3 つカンファレンスを定期的で開催して治療方針の決定や、治療に当たっております。以下にそれぞれのカンファレンスを紹介します。

顎変形症カンファレンス

月に 1 回（原則第 2 水曜日）外来および会議室でのカンファレンスを行っています。骨格的な形態異常によ

り、不正咬合や顎口腔機能異常が認められ、基本的には骨格的な上下顎の位置の異常の改善に外科的な手術が必要な患者さんが対象です。このカンファレンスにおいては、口腔外科、冠橋義歯補綴科、高次口腔医療センター顎口腔機能治療部門、矯正歯科の歯科医師が参加しています。

口蓋裂カンファレンス

2 月に 1 回金曜日に外来および会議室でのカンファレンスを行っています。口唇口蓋裂に起因する様々な不正咬合や顎口腔機能異常が認められる患者さんが対象です。このカンファレンスにおいては、口腔外科、義歯補綴科、高次口腔医療センター顎口腔機能治療部門、矯正歯科の歯科医師が参加しています。

Maxillo-Facial(MF) カンファレンス

月に 2 回木曜日外来でのカンファレンスを行っています。顎顔面部に様々な原因から機能的、形態的な問題を抱えている患者さんが対象です。このカンファレンスにおいては、形成外科の医師と口腔外科、冠橋義歯補綴科、矯正歯科の歯科医師が参加しています。



北海道大学病院地域医療連携福祉センター

第1回 地域連携研修会を開催

北海道大学病院は、8月27日(水)午後7時から北海道大学医学部臨床講義棟第3講堂において、北海道大学病院地域連携福祉センター第1回地域連携研修会を開催しました。本件研修会は「紹介・逆紹介業務」について、各医療機関の医師及び担当者に認識を深めてもらうこと、併せて骨粗鬆症治療のトピックを紹介することを目的として、今回は本院近郊の連携機能協定病院等から、特に内科・整形外科を対象として企画いたしました。

当日は渥美達也 地域医療連携福祉センター長から、今回初めて開催することとなった経緯等について挨拶があり、講演1として「北海道大学病院の紹

介・逆紹介業務の現状とあり方」について、石岡明子 同センター看護師長から同制度について具体的な説明がありました。

引き続き講演2として、「脆弱性骨折リスクの見分け方と多様な骨粗鬆症治療薬の使い分け」のタイトルで、北海道大学大学院医学研究科 整形外科学分野 講師 高畑雅彦から、同症治療薬に関する最新の情報について、講演がありました。

当日は60名(学外38名・学内22名)の参加者があり、同センターでは今後も定期的に他の専門領域の研修会を開催する予定です。



渥美センター長の挨拶



研修会の様子

高度ながん早期診断に係る研修会・合同カンファレンス開催のお知らせ

がん診療連携拠点病院は、2次医療圏(石狩支庁管内)において、がん診療に携わる医師を対象とした早期診断に関する研修を実施すること及び診療連携を行なっている地域の医療機関等の医療従事者も参加する合同のカンファレンスを毎年定期的の実施することを義務付けられており、特定機能病院である場合は、それに加えて北海道内のがん診療連携拠点病院等の医師等に対し、高度のがん医療に関する研修を実施することとなっております。

「高度ながん早期診断に係る研修会・合同カンファレンス」では、これらの内容を全て包含することにより、本院のがん診療連携拠点病院としての要件を具備させるほか、大学病院としての使命を果たすことを目的として下記のとおり開催します。

記

- 1 期 日 平成27年1月29日(木) 18:30~20:00
- 2 場 所 北海道大学医学部臨床講義棟「臨床大講堂」
- 3 対象者
 - (1) 2次医療圏(石狩支庁管内)においてがん診療に携わる医療従事者
 - (2) 本院と診療連携を行なっている地域の医療機関等の医療従事者
 - (3) 北海道内のがん診療連携拠点病院でがん診療に係る医療従事者
- 4 内 容
 - (1) 講演「食道がん・頭頸部がんの早期診断」
講師:北海道大学大学院医学研究科
消化器内科学分野 准教授 清水 勇一
 - (2) 合同カンファレンス「事例紹介に基づいたカンファレンス」
進行:北海道大学病院腫瘍センター
副センター長 診療教授 小松 嘉人
- 5 問い合わせ先 北海道大学病院 医療支援課 地域医療連携係
TEL:011-706-5629 E-mail:itiiki@jimu.hokudai.ac.jp

・ 編 ・ 集 ・ 後 ・ 記 ・

8月より小児がん相談員として配属になりました岡本咲恵と申します。

患者さんやご家族の気持ちに寄り添い、安心して治療に取り組んでいけるように支援を行っていきたいと思っております。

不慣れな点もあるかと思いますが、皆様のお役に立てられるように日々努力していく所存ですので、どうぞ宜しくお願いいたします。

発行 平成26年12月

北海道大学病院

地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目

TEL:011-706-7943(直通)

FAX:011-706-7945(直通)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/>